あること、不活化ワクチンの不活化試験をなくすという作業ではないこと、生ワクチンについての病原性やばらつきなどがある製品については適切であれば適用を除外すること等、資料に対する補足説明がなされ、次回にCPを提出したいとの提案が出された。

討議の結果、SCはこの提案を了承した。

④VICHにおける承認申請要件の広範な国際調和の推進のためのVICH国際調整委員会（GCG)の設立の提案

ICHでは、SCの下にGCGが組織され、ICHメンバー国以外へのICHの情報提供をしている。VICHにおいてもICHのGCGを参考にしたグローバル化の活動をするかどうかについて、前回のSC会合に引き続き討議がなされた。

SCは、この問題について検討するための小グループを設置し、意見交換することで合意した。

(4)ガイドラインの各極での実施状況

①地域でのガイドラインの解釈及び実施

FDAよりGL36（微生物学的ADI設定の一般的アプローチ）の米国とEUの解釈の違いについて、GL36を作成したTFの座長を中心として検討した結果、GLの明確化が必要との結論を得たと報告された。SCはさらに検討する必要があるとして、GL36の改訂、安全性WGの再立ち上げ等の指示は行わなかった。

②Step 9 GL（最終版）の見直しに関するコーディネーターからの提案

VICHの手順に従い、実施後実施後3年以上を経過した27のGLについて組織的に見直した。

討議の結果、GL18（不純物：新動物用医薬品、有効成分及び添加物中の残留溶媒）、GL23（遺伝毒性試験）及びGL33（試験への一般的アプローチ）については、改訂の必要があるため、GL18についてはJMAFFが、GL23及びGL33についてはFDAが改訂のためのCPを次回のSCに提出することとされた。

(5)第4回VICH公開会議

2010年6月にOIE本部（パリ）で開催される予定とされた。

(6)次回会合の日程及び場所

次回第22回会合は、カナダで2009年2月25日及び26日に開催する予定とされた。会議後開催地はオタワに決定した。

調査研究紹介

当所職員（他機関との共同研究を含む。）が学術集会及び学術雑誌に発表した調査研究報告を紹介します。

◆学術集会発表

発表学会・研究集会名	演　　題	氏　　名
第146回日本獣医学会学術集会（H20.9.24）	牛のCyp2E1の5'-flanking領域及び第５エクソンにおける遺伝子多型	小池好子、（峯戸松勝秀、）臼井優、（長谷部浩行、阿部剛、小林栄治）
第146回日本獣医学会学術集会（H20.9.24）	検定用マダイイリドウイルス攻撃株のメチルセルロースゲルを用いたクローニングと輸送に伴うマダイのマダイイリドウイルス感染後の死亡率の増加について	野牛一弘、木島まゆみ
第146回日本獣医学会学術集会（H20.9.24）	動物用抗菌剤の使用状況の調査結果について	小池良治、浅井鉄夫、小澤真名緒、石川整
第146回日本獣医学会学術集会（H20.9.25）	新たに提唱された血清型23型及び24型豚丹毒菌株の国内における調査	内山万利子、守岡綾子、（山本欣也、）青木奈緒、高橋敏雄、鈴木祥子
第146回日本獣医学会学術集会（H20.9.25）	牛におけるＬＰＳ誘発性発熱状態における腎機能の変動	清水裕仁、（翁長武紀、）永井英貴、（峯戸松勝秀、）荻野智絵、長坂孝雄、小澤真名緒、小佐々隆志、石丸雅敏、中村成幸、遠藤裕子